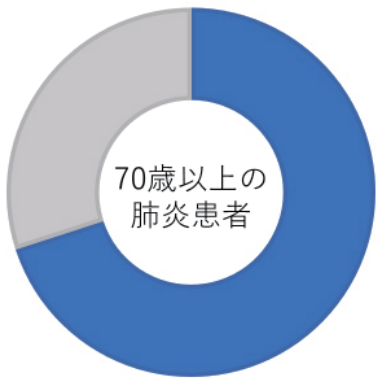


コープリハビリテーション病院・老健あかねだより

コープリハビリテーション病院は、川崎医科大学附属病院と倉敷中央病院との連携病院です。



【図1】70歳以上の肺炎のうち70%は誤嚥性肺炎でした。出典：『高齢化に伴い増加する疾患への対応について』（厚生労働省）2020年05月07日更新

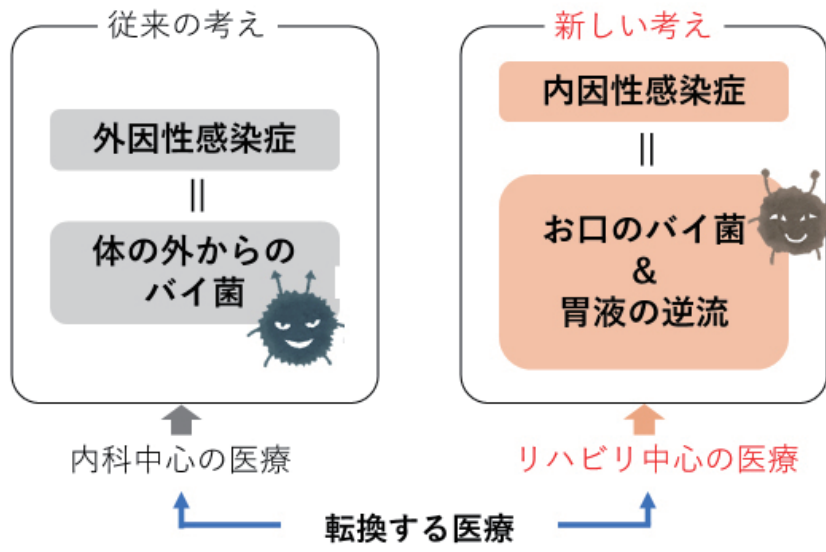
【はじめに】今年、京都開催予定だった日本リハビリテーション医学会学術集会は8月19日から4日間のオンライン開催でした。例年やっとの思いで仕事を1日休み学会出張していましたがオンラインのおかげで複数日の聴講ができました。このうち医科歯科連携と肺炎予防の講演を私なりにまとめたのでご報告します。

リハビリ医学会オンラインの報告

医科歯科連携と嚥下リハビリが肺炎を治療

コープリハビリテーション病院 院長 鍛本真一郎

誤嚥性肺炎の新しい捉え方

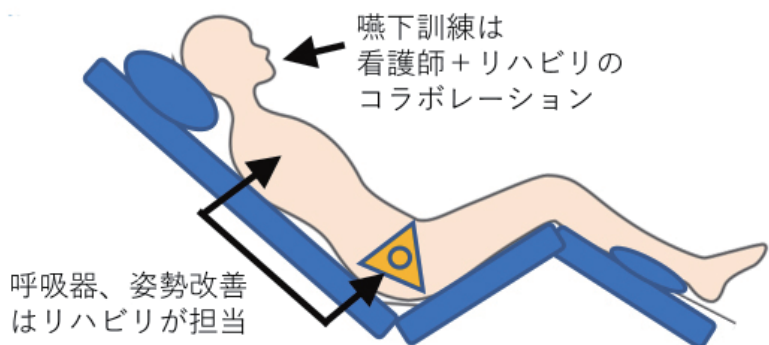


【図2】従来の内科治療（抗生物質など）をしても嚥下障害を断たなければ肺炎は繰り返します。（東邦大学リハビリ医学講座より）

【老人・誤嚥・肺炎】まず「肺炎死」の97%は65歳以上の高齢者です。これは多くの講演で取り上げられました。また70歳以上の高齢者が罹る肺炎の70%は誤嚥性肺炎でした（図1）。つまりインフルエンザや新型コロナウイルスは外から感染するけど高齢者が重症化する主因は嚥下障害によ

る誤嚥なのです。報告によると誤嚥性肺炎患者の痰を調べたところ多くは口の中のバイ菌（虫歯菌とか）でした。つまり口の中で増えたバイ菌が原因だったので。他に胃液の逆流も誤嚥性肺炎の原因です（図2）。

嚥下リハビリの一例=イス型ベッド

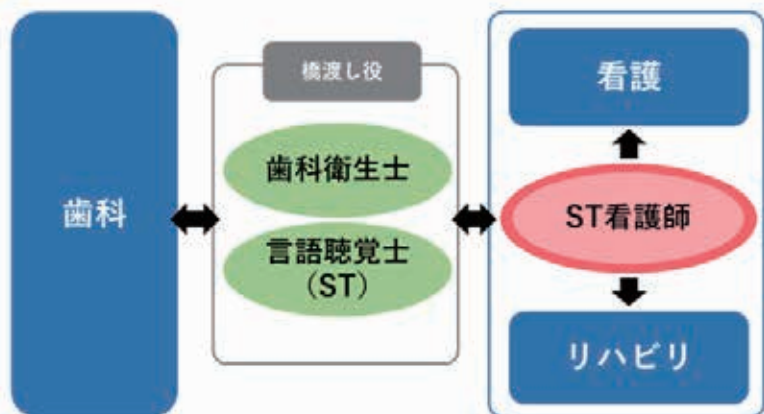


【図3】誤嚥性肺炎の予防にもなる当院の「イス型ベッド」。嚥下訓練は「口」だけでなく全身のコンディショニングが必要で、それをするのがリハビリ病棟スタッフによるコラボレーションです。

【医科歯科連携の橋渡し役】誤嚥のはじまりは口にあります。歯科の助けが必要な理由はそこにあります。かなめになるのは歯科衛生士とST（言語聴覚士、摂食機能療法を行うリハビリ職種）です。この両者が互いの専門にもとづき双方に評価と治療方針を伝達します。学会でもこの2職種の位置付けを強調してました。

しかし、嚥下障害は口腔だけでなく患者の意識状態、姿勢、呼吸機能など多くの身体要素が絡みます。例えばベッド環境も我々にとってはリハビリ設備です（図3）。そのための対応は看護・介護とリハビリが担います。この両者を有

院内の橋渡し役「ST看護師」登場



【図4】歯科と医科との橋渡し役は歯科衛生士とST（言語聴覚士）ですが、医科のリハビリと看護・介護との橋渡し役に当院ではST看護師を配置します。



【写真】看護師とSTのダブルライセンスを持つ石橋さん（写真右端）が、回診でリハビリリーダー、看護師と情報共有。

機能的に橋渡し出来れば口腔機能は更に向上するはずですが、学会でそこに触れた演題はありませんでしたが、当院ではこれも戦略の1つです（図4）。最後にその担当者の皆さんを紹介いたします（写真）。

入院や入所に際して、部屋代はいただいません。

岡山県老健協支えあいシステム

「コロナ集団発生に供え 支援組織発足」

岡山県老健協会にて新型コロナウイルス発生における応援事業が発足され、あかねからの派遣者として支えあいシステムの研修会に参加してきました。看護、介護職だけではなく施設に携わる多職種の方々が県内施設より参加されており、新型コロナウイルスとはなにか、感染対策についての対応、ゾーニング、発生時の支援システム等について学びました。

印象的だったのが、DVDで観た北海道の施設でのクラスター発生で感染者の転院先もなかなか決まらず、職員も感染する中で残された職員の疲労や激務の中、職員の大多数が離職し介護崩壊がおこっている現状でした。どの施設でも起こり得ることであり、感染対策の不備や介護職の不足などいろいろな問題が浮き彫りになっており衝撃を受けました。早期の支援体制が必要不可欠であり、この応援

派遣事業の役割を理解することができました。感染対策の徹底、支援システムの活用や職員の体調を整えられる職場環境作りが重要だということ、また敏感に変化に気付き最悪の事態を想定し早期の対応が必要であることを学ばせて頂きました。予防衣の着脱法、ゾーニングのシミュレーションの実技、質問に対し医師や感染対策認定

看護師による具体的な予防策の説明もあり、すぐに職場で実践できる研修でした。今回、研修で学ばせて頂いたことを職場での感染対策教育に活かし、応援要請に備えて体調を整え知識を深めていきたいと思っています。

老健あかね
看護師 永野香須美
白石寿万子



研修後院内でガウンテクニックの講習（写真左：永野看護師）

会えなくても ご家族の回復を 実感して欲しい

コロナウイルス感染対策により病棟での面会が困難となり、患者さんとご家族が直接会える機会が減っています。患者さんの回復はご家族にとって最も気になる点の一つです。

なんとか回復している様子を伝えたいが、直接はなかなか会えない。その解決方法としてリモート面会を開始しました。ご家族は1階のスペースでパソコンの画面を見て頂き、患者さんは2階のフロア



2階のフロアで実際に歩く様子を撮影している様子



1階のフロアで動きを確認するご家族

で立ったり歩いたり普段通りに動いて頂きます。会話だけではわかりにくかった事も実際の動きをみることで回復具合に実感が持てます。リモート面会は、感染防止の中でも効果的に動きが確認

できる新たな手段であり、回復具合が気になるご家族はぜひ活用して欲しい方法です。コープリハビリテーション病院リハビリテーション科
理学療法士 佐藤雅昭
作業療法士 松本遥祐

老健あかねは、通所リハビリ・訪問リハビリ・短時間通所リハビリとの連携をしています。



お問い合わせ先
倉敷医療生活協同組合
コープリハビリテーション病院
老人保健施設 老健あかね
TEL 086-444-3212 (代表)
受付時間 平日 9:00~16:30
土曜日 9:00~12:00
(日祝・年末年始を除く)
〒712-8057
倉敷市水島東千鳥町 1-60
ホームページ: <http://coopreha.jp/>
メールアドレス: info@coopreha.jp
広報委員会
発行責任者 笹舘 勝人

| 診療表 | | | | | 老健あかね [086-446-6541] | |
|---|-----------------|-------|-------------------|---------------------|-------------------------|--------|
| コープリハビリテーション病院 外来受付時間 8:30~12:00 [086-444-3212] | | | | | 訪問リハビリ | 通所リハビリ |
| 外来 | 装具 外来 | 歯科 | 短時間 通所 リハビリ | 短期集中 健幸アップ 教室 | | |
| 午前 9:00~ 12:30 | 14:30~ 15:00 | 午後 | 9:00~ 16:50 | 9:30~ 11:00 | ○ | ○ |
| 月 | | | ○ | | ○ | ○ |
| 火 | 渡辺 (予約制) | (予約制) | ○ | | ○ | ○ |
| 水 | 川村 | | ○ | | ○ | ○ |
| 木 | 太田 | (予約制) | ○ | | ○ | ○ |
| 金 | 飯塚 | | ○ | | ○ | ○ |
| 土 | | | | ○ | ○ | ○ |

| 医療福祉相談・連携室 | | |
|------------|------|------------------------|
| 相談 受付時間 | 平日 | 9:00~12:00 13:30~16:30 |
| | 土曜日 | 9:00~12:00 |
| | 日・祝日 | 休み |



感染対策担当看護師によるゾーニングのシミュレーション実技



老健あかね
通所リハビリテーション 事務
堀野 理佐



老健あかね
通所リハビリテーション 看護師
末吉 三枝子

新入職員紹介

無料低額診療事業・無料低額介護老人保健施設利用事業を行っています。